鈴木監事　県議会で乳がん検診に関する代表質問行う

平成29年2月27日（月）、県議会本会議において、本会監事である鈴木正人県会議員が無所属県民会議の会派代表としての質問を行った。

内容は、「乳がん検診における超音波併用検診の推進について」の質問である。

近年、乳がん検診学会では高濃度乳房（以下、デンスブレスト）の受診者へ告知が必要か議論されている。デンスブレストは脂肪性乳房に比べるとマンモグラフィー（以下、MMG）で病変の検出感度が低いということから、アメリカの一部の州では、受診者に対してデンスブレストの告知が義務付けられている。

日本での乳がん罹患年齢のピークは40代後半であり、他のがんとは異なる特徴を持つ。また欧米と比較し日本人の乳房は乳腺組織の密度が高く比較的デンスブレストである割合が高い。つまり日本においては、最も罹患率が高い年代に対してMMGが不得意ということになる。そこで東北大学を中心とした、乳がん検診における超音波検査の有効性検証に関する研究（J-Start）が行われ、乳がん検診でMMGに超音波検査を加えることにより、発見率が1.5倍になるという中間報告がされた。このことはマスコミでも大きく取り上げられた。今後はMMGに超音波併用検診の流れになることは明らかであるが、検診現場では、超音波検診の技術者が不足しているという声がよく聞かれる。

そこで今回、鈴木県会議員は、埼玉県の乳がん検診制度の充実を図るための政策として「乳がん検診における超音波併用検診の推進について」を、埼玉県知事に対して代表質問を行った。

質問の要旨は次の通りである。

「講習会の会場を県営の施設で行う際には、これを無償化したり、また講師の宿泊にかかる経費についても、県営の施設については費用の減額もしくは無償化を行うなど、すでにあるリソースを活用することによって、直接的な資金の援助以外にも、協力できる点があると考えております」

これに対して、上田知事から次の答弁を得ることができた。

「今後、国の検討結果を受けて、それに沿った乳がん検診の人材育成を医師会とも協議しながら支援していきたいと思います。本年１月には、県内医療従事者育成を目的として、交通の便の良い、さいたま新都心に地域医療教育センターをオープンしました。こうした設備の整った便利な施設を活用していただきたいと考えます」

今回の代表質問では、行政に対して乳がん検診についての問題点を訴えるきっかけとなり、上田知事から前向きな回答を得られたことは大きな成果といえる。

本会監事でもある鈴木正人県議に深謝する。

（文責：田中　宏）

公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰を受賞して

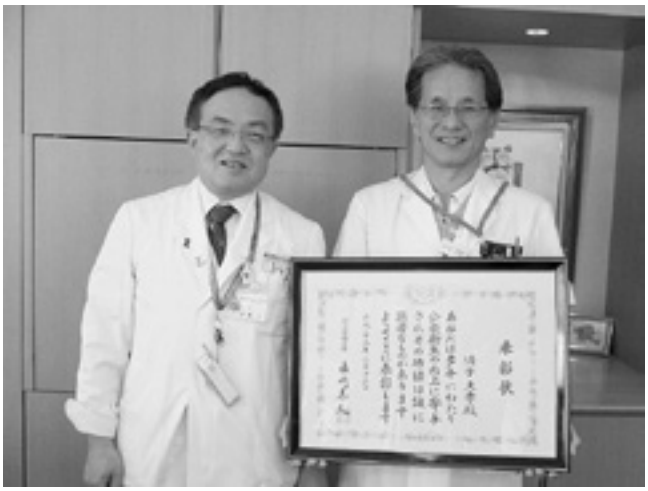
深谷赤十字病院
清水　文孝

平成29年2月13日（月）、大手町サンケイプラザホールで開催された公衆衛生事業功労者表彰式において、公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰を受賞しました。当日は、厚生労働省と一般財団法人日本公衆衛生協会の共催にて、大臣表彰者130人、公衆衛生協会会長表彰240人が表彰されました。埼玉県の厚生労働大臣表彰受賞者は、当方を含め6人でした。また診療放射線技師の受賞は、当方1人でした。病院という医療の最前線で職務を遂行してきたことが公衆衛生に当てはまるのか、また何分にも浅学菲才のわが身が、このような栄えある表彰を受けて良いのか、と思いながらも身に余る光栄の受賞であり、全国より表彰式に来られた皆さまと同席させていただけたことに感謝しております。

今回の表彰は、長年にわたり技師会の役員として活動をさせていただけたこと、その功労として公益社団法人埼玉県診療放射線技師会からご推薦を頂き受賞となったものと思っております。また埼玉県診療放射線技師会の役員を続けられたことは、深谷赤十字病院伊藤院長をはじめとする幹部の皆さまのご理解、放射線部門のスタッフの協力が不可欠でした。この表彰状には知事表彰の時と同様に、深谷赤十字病院の施設名、放射線科部スタッフの名前、当方を導いていただきました諸先輩のお名前などが記されてはおりませんが、施設の代表、第四支部の代表として私が受賞したと思っております。この場をお借りし、皆さまに感謝申し上げる次第です。さらに、役員としての活動は、埼玉県診療放射線技師会そして日本赤十字社診療放射線技師会を含め約20年。家を不在にすることも多々ありながらも、ただ背中を押してくれた妻には最大の感謝です。

定年まで約1年、この受賞に恥じないよう前進してまいる所存です。「不動」は性に合わず、無駄といわれようが「動」の性分です。倒れるなら一歩でも前向きに“老騎千里を走るがごとく”と思い、まい進させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、重ねて会の役員の皆さま、会員の皆さまに感謝申し上げ、受賞報告とさせていただきます。



公衆衛生事業功労者表彰を受賞して

堀ノ内病院
小池　正行

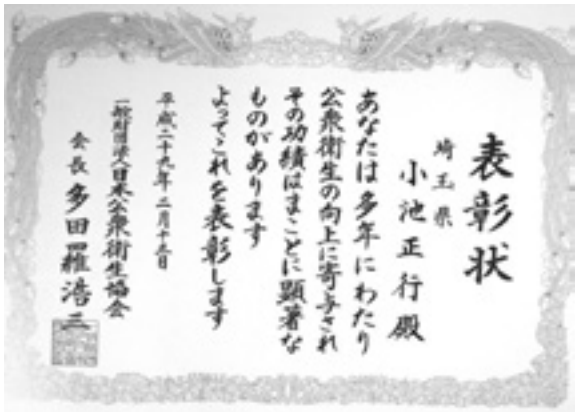
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の推薦により、平成28年度公衆衛生事業功労者として日本公衆衛生協会会長表彰の栄誉を賜り深く感謝申し上げます。

私は、昭和54年、診療放射線技師として右も左も分からないまま防衛医科大学校病院に入職し、平成28年度定年退職しました。防衛医科大学校病院時代は、疲労困憊して勤務を終えアパートに帰るなり一度仮眠をしてから夕食に取り掛かるという、若い時期もありました。

定年を迎えられたのは職場の先輩、後輩のお陰であることは紛れもない事実ではありますが、本当の心の支えになったのは、入職後数年たった後、埼玉県診療放射線技師会との出会いが大きかったと思います。年齢もほぼ同じ診療放射線技師なのに、知識の豊富さや職場環境の差に愕然とした思いでした。さまざまな状況の中で日々努力して、まるで後光が射しているような技師に近づくだけで幸せになった気がしました。世の中には上には上がいることを思い知らされ、私自身少しずつ努力するようになったのもこの時期からです。

今日このような栄誉に浴するに当たり、埼玉県診療放射線技師会をはじめ多くの方に感謝することは勿論のこと、多くの目標を与えてくださった天の神様にも感謝したいと思います。

最後に、このように人を育てる公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のますますの発展と会員のご活躍、ご健勝を祈念申し上げ、感謝の言葉と致します。


表彰状

埼玉県
小池正行殿

あなたは多年にわたり公衆衛生の向上に寄与され平の功績はまことに顕著なものがあります
よってこれを表彰します

平成二十九年二月十五日
一般財団法人日本公衆衛生協会
会長　多田羅浩三

日本公衆衛生協会会長表彰を受賞して

埼玉県済生会栗橋病院
栗田　幸喜

このたび、公衆衛生事業功労者表彰として平成29年2月13日（月）、大手町サンケイプラザホールにて、一般財団法人日本公衆衛生協会会長表彰を受賞させていただきました。これもひとえに、長年にわたり多くの先輩、また同僚の皆さまのご指導、ご高配の賜であり深く感謝申し上げますとともに、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の田中会長はじめ、理事、表彰委員の方々に厚くお礼申し上げます。当日は、隣席に元防衛医科大学校放射線部の小池正行氏、また厚生労働大臣賞を受賞された日本赤十字社深谷赤十字病院の清水文孝氏と一緒に参加させていただき、心強い限りでありがとうございました。

また先日の4月1日（土）には、第5支部矢崎理事が発起人となり、医療・福祉への功績が認められ、すでに知事表彰を受賞されていた獨協医科大学越谷病院中村正行氏と越谷市立病院矢部智氏との合同祝賀会を企画していただきました。足下のやや悪い中、フラールガーデン春日部において多くの皆さまにご出席いただき、盛大に開催することができました事、感謝・感謝であります。

今後も微力ではありますが、今回の受賞に恥じないよう日々の仕事ならびに公衆衛生事業に貢献できるように精進してまいりたいと思います。

最後に、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のさらなる発展と、会員皆さまのますますのご活躍・ご健勝をご祈念申し上げお礼の言葉とさせていただきます。

平成 29 年　公益社団法人埼玉県診療放射線技師会新春の集い開催報告

総務常務理事
平野　雅弥

平成 29 年 1 月 13 日（金）19：00 より、大宮サンパレス・グランツにて「平成 29 年新春の集い」が開催されました。今回は、新入会員 13 人を含む総勢 89 人の方々にご参加いただきました。

開会後、小川前会長のあいさつおよび祝電を披露し、しばらくご歓談いただいた後、日ごろよりお世話になっております賛助会員の皆さまにもスピーチをしていただきました。その後、今年度表彰された方々からも貴重なお話しを頂戴しました。お酒も入り、会も盛り上がったころ、新入会員の皆さまには司会とのやりとりの中で自己紹介や抱負などを述べていただきました。全体に和やかで盛会の 2 時間でした。

最後に、お忙しい中ご参加いただきました会員、賛助会員の皆さまに心より感謝申し上げます。

第31回埼玉県診療放射線技師学術大会開催報告

大会実行委員長
今出　克利

第31回埼玉県診療放射線技師学術大会が平成29年3月5日（日）、入間郡毛呂山町の日本医療科学大学で開催された。同大学では、平成23年3月13日に学術大会を行う予定であったが、2日前の3月11日に東日本大震災が発生し、やむを得ず中止となった。今年、大学が創立10周年を迎え、6年越しに実現する運びとなった。

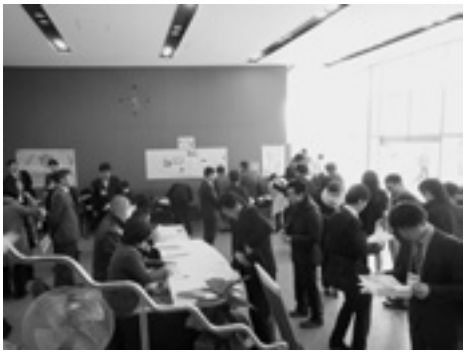
大会テーマは『今を未来へと繋げる～ Hope to the 10years of the future ～』とし、学生・現役技師ら、特に若い技師の皆さまを中心に楽しんでいただける内容を企画した。大会内容は、一般演題18演題・学生演題9演題、シンポジウム「診療放射線技師の教育と育成について考える」、学術特別企画「国際学会にチャレンジ」、テクニカルディスカッション「放射線治療装置ごとのIGRTを理解しよう」、リーディングコーナー、ランチョンセミナー、機器展示（16社）であった。また公益社団法人日本診療放射線技師会 統括専門職の小川清氏より特別講演Ⅰ「今、そして、これから」、日本放射線公衆安全学会 監事の諸澄邦彦氏より特別講演Ⅱ「放射線医学の歴史と進歩」をご講演いただいた。

参加人数は、295人（会員219人、非会員13人、学生31人、協賛メーカー32人）。会場は都心部より離れた場所であったが、車で参加でき郊外で環境が良いということから多くの方々に参加をいただくことができた。また来場者の多くが車で来ることを想定し、大学側の協力もあり、駐車場係を学生に協力いただきスムースな運営ができた。

初めて大学で学術大会を開催するに当たり課題もあったが、終わってみれば盛会に終了することができた。 施設を快くお貸しいただいた日本医療科学大学、大学関係者、関係各位に深謝を申し上げる。

来年度開催予定の第32回埼玉県診療放射線技師学術大会は、平成30年3月4日（日）大宮ソニックシティで開催予定である。 引き続き盛会に開催できるように企画・準備を行ってまいりますので、ぜひご期待ください。

日本医療科学大学



受付風景

田中会長あいさつ

機器展示

発表風景

大学へ贈呈

実行委員一同

「リーディングコーナー　成績優秀者」

胸部部門　：	大宮シティクリニック	堀越　隆之
MMG 部門　：	済生会川口総合病院	高橋　美香
MDL 部門　：	行田中央総合病院	浅見　純一
CT 部門（難易度★★★）：	上尾中央総合病院	佐々木　学
CT 部門（難易度★）：	埼玉医科大学総合医療センター	山崎　貴雄
MRI 部門　：	上尾中央総合病院	飯島　　竜

「優秀演題賞　学生演題部門」

21. リニアックにおけるコリメータ反転効果の検証
日本医療科学大学　　○橋爪　寧々、小出　智生、佐藤　　洋、中谷儀一郎

24. 散乱線による水晶体への影響～立位電子線治療において～
日本医療科学大学　　○原田　玲奈、丹野　美佳、坂本　重己、中谷儀一郎

「優秀演題賞　一般演題部門」

7. Effective NEQ による仮想グリッドの評価
済生会川口総合病院　放射線技術科　戸澤　僚太

17. 血管撮影における面積線量計を用いた皮膚表面線量推定についての検討
済生会川口総合病院　放射線技術科　岡田　　翔

公文書の出し方
平成 28 年度役員研修会

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長　田中　宏

1. 公文書とは

法的には、国または地方公共団体の機関、あるいは公務員がその職務上作成した文書をいう。従って、公益社団法人の出す文書はこれに該当せず、法的には私文書に該当する。『言葉のバンク』しかし、公文書管理法第 2 条第 8 項では「公文書等」として、行政文書、法人文書、特定歴史公文書等とあり、公益社団法人で出す文書のこの「公文書等」に該当することになる。従って、技師会で出す文書は「公文書」と表現して問題はない。

2. 公文書における法的責任

公文書偽造罪（刑法第 155 条）
　1 年以上 10 年以下の懲役
私文書偽造罪（刑法第 159 条）
　3 ヵ月以上 5 年以下の懲役

他人が許可なく技師会名で発行した場合、刑法第 159 条に該当する可能性がある。日本は文書に対する信頼を極めて重要視しており、その罰則も重く懲役刑のみとなっている。

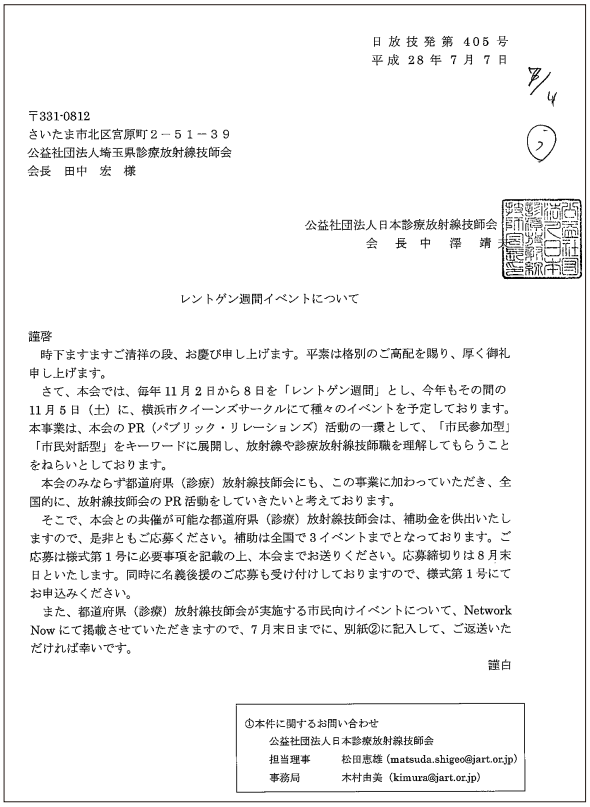
3. 公文書番号

公文書番号は、文書管理の意味を持つもので、その組織内の運用で決めるものである。公文書番号を発行しない組織もあり、必ず発行しなければならないというものではない。また組織外部に出す文書にのみ公文書番号を発行するという運用方法もあるが、発行の有無に関する判断が曖昧になりやすいため、発行する文書には全て公文書番号を発行している組織が多い。

4. 日付について

原則、発行した日付けを入れ、未来日は入れない。文書の出すタイミングを先読みして、未来日の日付で文章を作成する。その文書を誤って未来日のまま送付した場合には、消印より未来日の文書を送るということはあり得ないため、文書自体が無効となることがある。また、「○年○月吉日」という日付けは、祝賀会などの案内によく使われるが、公文書としてあまり使われない。

筆者の失敗談として、ある団体から毎年決まった証明書の発行を依頼されていたことから、事前に見越して、あらかじめその証明書を取得し、その後、団体からの証明書の依頼が来たので、事前


日放技発第 405 号
平成 28 年 7 月 7 日

〒331-0812
さいたま市北区宮原町２－５１－３９
公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長　田中　宏　様

公益社団法人日本診療放射線技師会
会　長　中　澤　靖

レントゲン週間イベントについて

謹啓
　時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
　さて、本会では、毎年 11 月 2 日から 8 日を「レントゲン週間」とし、今年もその間の 11 月 5 日（土）に、横浜市クイーンズサークルにて種々のイベントを予定しております。本事業は、本会の PR（パブリック・リレーションズ）活動の一環として、「市民参加型」「市民対話型」をキーワードに展開し、放射線や診療放射線技師職を理解してもらうことをねらいとしております。
　本会のみならず都道府県（診療）放射線技師会にも、この事業に加わっていただき、全国的に、放射線技師会の PR 活動をしていきたいと考えております。
　そこで、本会との共催が可能な都道府県（診療）放射線技師会は、補助金を供出いたしますので、是非ともご応募ください。補助は全国で 3 イベントまでとなっております。ご応募は様式第 1 号に必要事項を記載の上、本会までお送りください。応募締切りは 8 月末日といたします。同時に名義後援のご応募も受け付けしておりますので、様式第 1 号にてお申込みください。
　また、都道府県（診療）放射線技師会が実施する市民向けイベントについて、Network Now にて掲載させていただきますので、7 月末日までに、別紙②に記入して、ご返送いただければ幸いです。
謹白

①本件に関するお問い合わせ
公益社団法人日本診療放射線技師会
担当理事　松田恵雄（matsuda.shigeo@jart.or.jp）
事務局　木村由美（kimura@jart.or.jp）

に取得しておいた証明書を提出したところ、依頼日以前に取得した証明書は無効である。ということをを経験した。

文書における日付けは、公文書や法的文書においては極めて重要な要素の一つになることがある。

5. 講師依頼状を出す場合の注意点

私たちが最も多く関わる公文書の一つとして講師依頼状がある。これまで公文書の事務的なことについて述べてきたが、相手に失礼のない依頼をしなければならない。

(1) 講師依頼について

自分と講師の関係が親しい間柄なのか、そうでないのかで異なる。そうでない場合は、直接電話で依頼することが望ましい。メールはあくまでも、依頼内容に関する詳細な打ち合わせとその記録と考えるのがよい。私たち医療従事者はITに強い人が多く、メールに頼りすぎるあまり、相手に失礼になりやすい場合がある。

(2) 講師依頼状出し方

本人の他、技師長、病院長に依頼状が必要か否か、また、直接、個々に送ってよいのか、まとめて本人に送るのかを打ち合わせしなければならない。施設によっては内諾を取ってから依頼状を提出する場合があり、その場合、直接上司に送られると順番が逆になってしまうことがあるので、本人と詳細な調整する必要がある。

(3) 依頼状を出すタイミング

依頼状は基本的に早い方が良い。依頼の内諾を半年前にいただいておきながら、依頼状を直前に送るというのは失礼になる場合がある。理由は、講師の施設で依頼内容に関する決済を取らなければならない場合があり、最低でも1ヵ月必要なことが多い。それから逆算すると、講演日より最低でも1ヵ月から2ヵ月前には正式な依頼状が必着していなければならない。逆に依頼状は早めに送付し、直前にメールや電話などで確認するほうが親切である。

(4) 謝礼金の記載

謝礼金の記載がない依頼状は、公的病院では決済が下りないことが多いので、講師依頼状に謝礼金の記載は必須である。公的な病院はたとえ本人が公務員であったとしても謝礼金自体は問題にならない。職務に影響を及ぼさないという営利企業など従事許可が必要であり、正式な謝礼金が記載してあることが必要である。従って、謝礼金欄に「本会規定による」は決済が下りないばかりでなく、講師に対して失礼に当たることがある。

6. さいごに

文書は発行した後に、それまでの経緯は置き去りにされ、文書のみが独り歩きする可能性がある。また文書は原本またはPDFなどのデジタルデータで長期間保存される。さらにはその文書が証拠となり、法的な責任を問われることもある。発行には十分な注意をしなければならない。

平成 28 年度第 15 回胸部認定講習会報告

学術委員
滝口　泰徳

平成 28 年 12 月 4 日（日）に、第 15 回胸部認定講習会が開催された。

講習会参加人数は会員 29 人、非会員 2 人の 31 人であった。昨年度より多くの方に参加していただき、2 回目以降の参加者もおり、改めて胸部単純写真の重要性を実感した。

内容と講師は以下の通りである。

・胸部単純写真の撮影法	所沢ハートセンター	柴　　俊幸
・装置の基礎	株式会社島津製作所	清水　達也
・胸部単純写真の適正線量と被ばく	済生会川口総合病院	土田　拓治
・胸部の CT 診断	羽生総合病院	染野　智弘
・胸部単純写真を診る	上尾中央総合病院	滝口　泰徳
・胸部単純写真の読影法	上尾中央総合病院	佐々木　健

アンケートの結果を下記に示す。基礎的な内容の「胸部単純写真の撮影法」や「装置の基礎」、読影に関する内容の「胸部単純写真を診る」、「胸部単純写真の読影法」に関しての理解度は高かったが、前回同様、「胸部単純写真の適正線量と被ばく」や、「胸部の CT」に関しては一部の受講者より、難易度が高いとの回答があった。その背景として、受講者には若い方が多く、CT の経験が少ない方もいると考え、このような結果になったと思われる。フリーのコメントでは「今まで何度も胸部単純撮影を行いましたが、気を付けるところが多くあり、しっかりわれわれが撮影することが大切だと思いました。ありがとうございました。」との感想を頂いた。講義を行った講師陣も、このような感想は非常に励みになり今後もより良い講習会を目指そうと思えた。来年度も受講者の満足度が高い講習会内容考え、興味がある方の多くの参加を心待ちにしている。

難易度	簡単	やや簡単	適度	やや難しい	難しい
胸部単純写真の読影法	0	1	28	2	0
装置の基礎	0	0	24	7	0
胸部の CT	0	0	16	14	1
胸部単純写真の適正線量と被ばく	0	0	9	18	4
胸部単純写真を診る	0	0	29	1	1
胸部単純写真の読影法	0	0	26	4	1

第8回CT認定講習会 開催報告

学術理事
城處　洋輔

平成29年1月22日（日）に、第8回CT認定講習会が済生会川口総合病院 東館講堂で開催され、他県からの参加者も含め28人が受講された。前半は、分野ごとにCT検査における解剖を含めた基礎から臨床症例を交えた実践的な講義が行われ、後半は、TDCの理解を中心とした造影技術、装置の性能評価やプロトコル構築のために必要な物理特性の講義が行われた。物理特性実習では、事前に撮影したファントムデータを用い、受講生がエクセルを用いて真剣に解析する姿勢が見られた。また自由参加ではあるがファントム作成実習では、和やかな雰囲気の中で、参加者同士楽しみながら作成する様子が見られた。当日のプログラムを以下に記す。受講生の皆さま、また講義や実習を担当された講師の皆さまには、この場をお借りしてお礼申し上げる。

プログラム

8：20～ 8：40	受付		
8：40～ 8：45	オリエンテーション		
8：45～ 9：45	救急CTの撮影法、読影講義	佐々木　健	上尾中央総合病院
9：50～10：50	胸部CTの撮影法、読影講義	染野　智弘	羽生総合病院
11：00～12：00	腹部CTの撮影法、読影講義	八木沢英樹	JCHO埼玉メディカルセンター
13：00～14：00	頭頸部CTの撮影法、読影講義	富田　博信	済生会川口総合病院
14：10～15：10	造影技術概論	中根　　淳	埼玉医科大学総合医療センター
15：20～16：20	物理特性講義	柴　　俊幸	所沢ハートセンター
16：30～18：30	実習1（MTF、SSPz、NPS）	柴　　俊幸	所沢ハートセンター
18：30～19：30	実習2　ファントム作成	志藤　正和	済生会川口総合病院
	（参加自由）	城處　洋輔	済生会川口総合病院

講義

物理特性実習

第16回　上部消化管検査認定講習会　開催報告

学術常務理事
今出　克利

平成29年1月22日（日）に、第16回上部消化管検査認定講習会をさいたま赤十字病院で開催しました。さいたま赤十字病院が移転してから初めての講習会開催であり、非常にきれいな会場の中、すがすがしい気持ちで講義を聴講できたのではないでしょうか。

受講者数は18人で、午後からは埼玉消化管撮影研究会との合同開催となり、全体での参加者は33人でした。今年は、東京都がん検診センターの小田先生をお招きして、読影と病理について講演していただきました。講習会のプログラムは下記の通りです。

プログラム（敬称略）

平成29年1月22日（日）：上部消化管撮影　認定講習会

9：00～ 9：30	受診者管理（検査説明・接遇・情報管理）	志田　智樹（レインボークリニック）
9：30～11：00	X線透視装置の基礎：画質：性能評価	三浦　洋敬（東芝メディカルシステムズ㈱）
11：00～12：00	被ばく管理	工藤　安幸（東松山市立市民病院）
12：00～12：30	造影剤のリスクマネジメント	永長　正樹（カイゲンファーマ株式会社）

埼玉消化管撮影研究会と合同開催

13：30～15：30	上部消化管の読影と病理	小田　丈二　先生（東京都がん検診センター）
15：30～16：30	上部消化管撮影技術	今出　克利（さいたま市民医療センター）
16：30～17：30	精密検査法およびレポート作成	大森　正司（さいたま赤十字病院）

終わりに、東京都がん検診センターの小田先生、日立メディコの三浦さま、カイゲンの永長さま、講義を担当していただいた技師の先生方、当日、会場準備や運営にお手伝いいただいた埼玉消化管撮影研究会の世話人、バリウムメーカーのMRの方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます。

さいたま赤十字病院　2F　多目的ホール

平成 28 年度　埼玉県診療放射線技師会認定試験　開催報告（胸部・上部消化管検査・CT）

学術常務理事
今出　克利

平成 28 年度埼玉県診療放射線技師会認定試験が平成 29 年 2 月 5 日（日）、移転して間もないさいたま赤十字病院で開催しました。CT 認定では、筆記試験と読影試験に加えて物理特性（NPS、MTF、SSPz）の試験が行われ、12 人が受験し A 認定なし、B 認定が 4 人でした。胸部認定では、胸部単純写真の読影試験および筆記試験が行われ、26 人が受験し A 認定なし、B 認定が 3 人でした。上部消化管検査認定では、普通胃と横胃の 2 症例による画像評価と読影試験および筆記試験が行われ、9 人が受験し A 認定なし、B 認定が 3 人でした。

認定試験を合格した方々には、各施設で撮影技術向上と精度管理の普及をお願いするとともに、放射線業務の質の向上に努めていただきたいと思います。

【CT 認定】
A認定：該当者なし
B認定：梅堀　貴史（熊谷総合病院）
　　石田　隼斗（上尾中央総合病院）
　　鈴木　友理（済生会川口総合病院）

【胸部認定】
A認定：該当者なし
B認定：市浦　京子（上尾中央総合病院）
　　南澤　奈月（上尾中央総合病院）
　　山口　恵利（西大宮病院）

【上部消化管検査認定】
A認定：該当者なし
B認定：髙橋　康昭（上尾中央総合病院）
　　赤坂　未波（熊谷総合病院）
　　安達　沙織（上尾中央総合病院）

平成28年度　役員研修会　開催報告

総務常務理事
結城　朋子

平成29年2月10日（金）に、恒例となりました役員研修会を開催致しました。

この役員研修会は、理事および常務理事の他、地区・委員会の委員の皆さまを対象としており、会議以外ではあまり顔を合わせることのない役員間のコミュニケーションの場として、また役員としての資質向上を図ることを目的とし毎年開催しております。

研修会のテーマを決めるにあたり、会の役員としてどのようなスキルが必要か、いろいろと検討した結果、“公文書”に関して研修会を開催することとしました。そもそも私たち技師は日常業務のなかで、公文書の発行に携わる機会は少なく、いざ発行するとなると手続きの方法や文章の書き方など分からないことも多々あります。今ではインターネットを通じて文章のひな形は簡単に手に入りますが、公文書とはどんなものか、公文書の正式な書式などといった基本的な知識は、役員として会の運営を円滑に行うために必要不可欠であると思います。今回は当会の田中 宏 会長に“公益社団法人の運営に必要な公文書と法的な契約行為”と題して、ご講演いただきました。まず、私たちが扱う公文書の種類として“講師依頼状”、“委嘱状”、“他団体への後援依頼”、“借用依頼”などを挙げ、“公文書とは”また“公文書番号の振り方”などを見本と合わせ分かりやすくお話しいただきました。続いて依頼状発行の手続き方法や、公文書に関する刑法など内容は多岐にわたっており、大変参考となりました。講演時間の1時間半はあっという間でしたが、会の運営に携わる私たち役員にとって大変有意義な研修会となりました。

第３回　埼玉 DR 計測セミナー報告

済生会川口総合病院
土田　拓治

第三回 DR 計測セミナーが、済生会川口総合病院にて開催された。他県からのリピーターも含め 18 人の参加者であった。前回アンケートを参考に今回も新たな実習項目として、乳房撮影装置における物理特性と散乱線含有率測定実習を取り入れた。全て実習スタイルとしたことで、参加された方々との距離も近く、より理解を深めていただいたことは、企画したわれわれとしても嬉しい限りである。ただしタイトスケジュールになり、参加者だけでなく講師への負担が増してしまったことは、今後の反省点である。

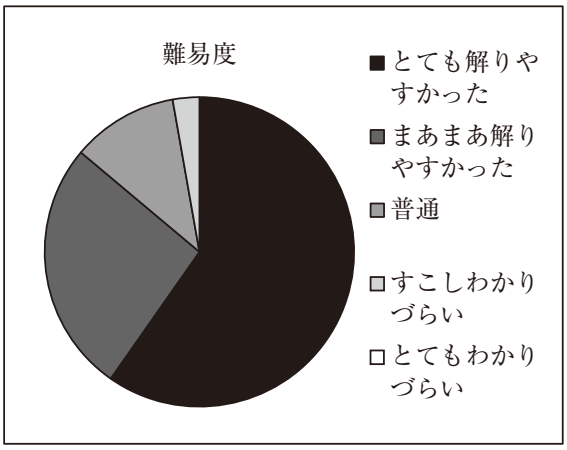
次年度も新たな企画をすでに用意している。具体的には、ファントムによる視覚評価解析や統計学的分析などの実習も加える予定である。このセミナーを行う上で施設借用を快諾していただけた施設、講師・スタッフ全ての関係各位に紙面をお借りし深くお礼申し上げます。以下に今回セミナー内容とアンケート結果を報告する。

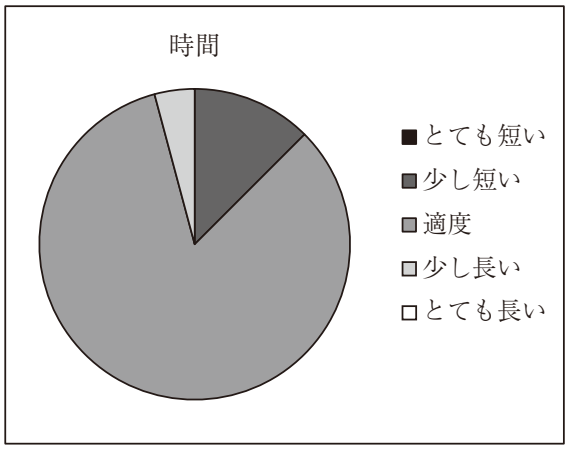
次回もたくさんの参加申し込みお待ち申し上げます。

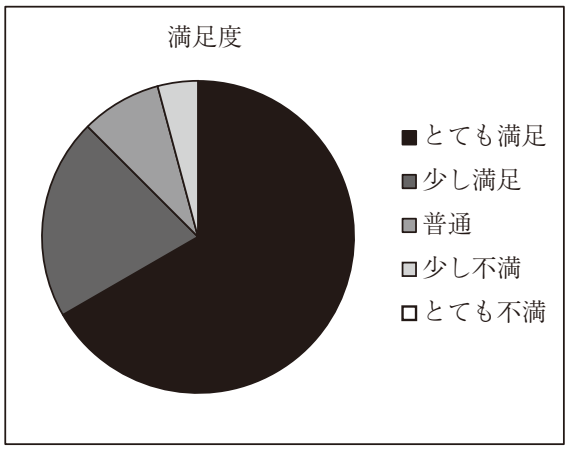
以下プログラムとアンケート結果を記載する。

実習 1；乳房撮影装置物理特性の取得
実習 2；散乱線含有率測定
実習 3；一般撮影機器における物理特性測定
実習 4；PC による物理特性解析

アンケート結果







第5回 Freed セミナー報告

上尾中央総合病院
佐々木　健

平成29年3月25日（土）に、第5回となるFreedセミナーが開催されました。今回は、株式会社ウィ・キャン 代表取締役 濱川博招さまを講師にお招きし、『部下管理・5つの質問（ドラッカーより）・上司マネジメント』などをグループワークを交えて行いました。

✓ 診療放射線技師の顧客とは誰か？
✓ われわれのミッションとは何か？
✓ 上司が仕事をし易くなるにはどうしたらよいか？
✓ 患者が望む診療放射線技師像とは？

これらの質問にあなたはどのように答えますか？

私たちが組織の中で仕事をしていく上で、考えなくてはならないことを参加者同士で話合いながら答えを探しており、非常に有意義な時間となりました。
次回は『報・連・相』をテーマに平成29年秋を予定しております。
お時間ある方は気軽にご参加ください。

《セミナー風景》

第５回　Freed セミナーに参加して

上尾中央総合病院
小川　智久

診療放射線技師として、中堅に必要な考え方やコミュニケーションの取り方、行動の仕方など、日常の業務以外のスキルを学びたいと思い、今回の Freed セミナーに参加することにしました。セミナーは、座学とディスカッションを交えたもので、とても充実した３時間を過ごすことができました。

座学では「ミッション・顧客・顧客の価値について」というテーマで、講義が進められていきました。診療放射線技師として、部下や上司をマネジメントしなくてはならないこと、常に医療を提供する顧客を意識して業務を行わなければならないこと、顧客が診療放射線技師に何を求めているかを理解することなど、日常業務では考える事の少ない目線の話で、考えさせられる内容の講義でした。

ディスカッションでは、４人１グループとなり、診療放射線技師としての使命とは何か、自分の強みは何かなど、さまざまなテーマを考え発表をしていきました。グループ内には、違う病院の違年代の方がいたので、それぞれの目線に沿った、意見を聞くことができました。

セミナー終了後は懇親会も開催され、セミナーでは話すことのできなかった仕事の話や、それぞれの病院での取り組みなどを話すことができ、とても充実した時間となりました。

第３回救急撮影ケーススタディー開催報告

学術委員
滝口　泰徳

平成29年3月28日（火）に、第3回救急撮影ケーススタディーを上尾中央総合病院で開催しました。本セミナーはグループ形式で症例検討を行い、他施設の診療放射線技師と交流しつつ、疾患に対する理解を深めることを目的としています。前回は頭部領域に絞った内容で、座学を行った後に、グループワークを行いましたが、今回は座学のみの講義をやめ、グループワークによる症例検討のみを行いました。ケーススタディー①②ともに、循環器疾患がメインの内容となっており、ケーススタディー①「胸部痛」では、大動脈解離と肺塞栓の2症例あり、講師の下林先生からは、グループワークの前に胸痛をきたす疾患を丁寧に説明していただき、また各症例の血液データなども分かりやすい解説があり、活発なディスカッションの一助となりました。ケーススタディー②の「心不全？」では、講師の金野先生が実際に経験された非常に珍しい症例で、主訴が慢性心不全の急性増悪で、最終的な診断は腹部大動脈瘤と下大静脈が交通することによって起こった心不全症状の急性増悪ということでした。グループワークは基礎検査データから考えられる疾患、単純CTより考えられる疾患、造影CTより考えられる疾患と、3回あり、各テーブルで多くのディスカッションが行われました。終了後のアンケートでは「希少な症例を学ぶことができ、大変良かったです。また患者データ（血液・生化学）からさまざまな疾患を考えることができ、これからも学習していかなければならないと感じました」「職場でもやってみたいと思います」との意見を頂き、今回のセミナーも受講者にとって有意義なものであったと思います。

今後も本セミナーを継続して行い、救急診療に関する知識を高めていければと考えています。第4回救急撮影ケーススタディーも多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

19：00～20：00　　ケーススタディー①「胸部痛」
埼玉医科大学総合医療センター　　下林　義明

20：00～21：00　　ケーススタディー②「心不全？」
上尾中央総合病院　　金野　元樹

骨軟部撮影セミナー 2017 開催報告

済生会川口総合病院
森　一也

このたび、平成 29 年 2 月 18 日（土）に、骨軟部診断情報研究会共催で埼玉県診療放射線技師会、東京都診療放射線技師会地区合同勉強会として、骨軟部撮影セミナー 2017 が済生会川口総合病院東館講堂で開催された。約 150 人が参加し、盛況のうちに閉会した。

一般撮影のポジショニングや撮影条件・画像処理の設定は、各施設によりさまざまであり統一されていないのが現状である。そのため自施設における撮影方法や条件が適正か不安に感じている施設が多くある。今回のセミナーでは、一般撮影における四肢撮影に焦点を当て、初学者からベテランまで多くの方々が学べるように「ポジショニングの工夫」「救急撮影」「画像処理」など、さまざまな視点から四肢撮影の解説が行われた。各施設の若手技師による「一般演題」では、聴講していた若手技師に良い刺激を与えるきっかけになったかと思う。本会を開催するに当たり、開催の 1 年前よりご助力いただいた骨軟部診断情報研究会の先生方による講演では、過去の症例報告や現在行っている取り組みについて説明していただいた。歴史ある研究会であるため、本セミナーにおいても学ぶべき点が多々あり、今後も協力して地区の活性化に貢献できればと思う。また竹澤先生による特別講演では、一般撮影の画像だけでなく CT・MRI 画像からのアプローチを交え、読影医がどのような視点で単純 X 線画像を読影しているのかを講演していただいた。竹澤先生の講演を拝聴し、今後は取得された単純 X 線画像が CT や MRI の検査の際にどのように活用されているのか、マルチモダリティでのセッションによる検討を行えれば良いと感じた。

埼玉県診療放射線技師会ではさまざまなモダリティの勉強会を企画・開催しているが、一般撮影を主とする勉強会は少なかった。参加人数からも一般撮影に関する勉強会の要望の高さが分かる。また本会は地区の垣根を越え、多くの先生方や若手技師の交流の場となる会でもあり、情報交換の場としても非常に有益であると感じた。今後も、参加者のニーズに応え、情報交換の場としても提供できるよう、継続して本会を開催していきたいと考えている。

末尾になりますが、本セミナーを企画していただきました大西代表、実行委員の方々、ご講演いただきました演者の方々、およびご助力賜りました骨軟部診断情報研究会の先生方に深く感謝申し上げます。

骨軟部撮影セミナー 2017 開催報告

上尾中央総合病院
内田　瑛基

平成 29 年 2 月 18 日（土）に、埼玉県済生会川口総合病院で埼玉県診療放射線技師会と東京都診療放射線技師会の合同開催による『骨軟部撮影セミナー 2017 ～初学者からベテランまで抑えておきたい四肢撮影技術～』が開催され、演者そして実行委員として参加致しました。本セミナーは今年度からの新しい試みとなる勉強会でしたが、埼玉県、東京都だけでなく他県からの参加者もあわせ 152 人の方々にご参加いただき、盛会に終了しました。

当日は下記のプログラムに沿って 20 人の先生より、貴重な講演をしていただきました。

「機能解剖を考える　～手関節～」　上尾中央総合病院　仲西　一真
「THA 術前計画における股関節 30 度内旋位 PA 撮影の検討」　さいたま赤十字病院　大河原侑司
「上腕骨顆上骨折症例における再撮影の検討」　埼玉県済生会川口総合病院　西田　衣里
「ACS 患者を対象としたアキレス腱の撮影意義と撮影方法について」　所沢ハートセンター　柴　俊幸
「誰でも簡単スカイラインビューの実践」　堀ノ内病院　小池　正行
「Dual Energy CT を用いた乾癬性関節炎の画質評価」　東京慈恵会医科大学附属病院　宮崎　健吾
「最新画像処理　【ダイナミック処理について】」　富士フイルムメディカル株式会社　宮野　武晴
「ワイヤレスフラットパネルを用いた四肢撮影への新しいアプローチ」
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン社　北中　康友
「キヤノンデジタルラジオグラフィ CXDI シリーズの紹介」
キヤノンライフケアソリューションズ株式会社　伊藤　琢也
「大腿骨頸部骨折の撮影・読影ポイント」　深谷赤十字病院　坂本　里紗
「技師として手疾患を撮る（診る）」　船橋市立医療センター　石塚　瞬一
「外傷診療における救急撮影の基礎」　さいたま赤十字病院　渡部　伸樹
「みんなで創ろう、実践的救急撮影法」　上尾中央総合病院　内田　瑛基
「臨床に適した画像処理選択の基本　～四肢撮影を中心に～」　埼玉県済生会川口総合病院　森　一也
「線量指標 EI の基礎知識　～整形外科領域での活用法～」　獨協医科大学越谷病院　高橋　利聡
「骨軟部診断情報研究会での症例検討紹介」　昭和大学歯科病院　石田　秀樹
「各施設一般撮影領域線量比較の取り組み」　関東労災病院　若林　一成
「日々の撮像に活かしたい骨軟部診断の知識～読影医の視点から～」
埼玉医科大学病院　竹澤　佳由　医師

本セミナーを開催するにあたりお力添えをしていただいた骨軟部診断情報研究会会長および東京都診療放射線技師会副会長である石田秀樹先生のご講演では、骨軟部診断情報研究会の歴史や骨軟部診断情報研究会を毎月開催し続けるために行っていること、そして実際の症例報告などについてご教授いただきました。

また埼玉医科大学病院の竹澤佳由医師のご講演では、症例ごとで診断時の判別で必要な画像や画像処理など、われわれ診療放射線技師が普段行っている検査がどのように活かされているかをご教授していただきました。自身の勉強不足も身に染みましたが、それ以上に医師と診療放射線技師が協力していくことで、患者さまにより良い医療を提供する可能性を垣間見ることができ、技師としてのモチベーションが高まりました。

本セミナー開催に当たり演者の皆さまをはじめメーカーの皆さま、そして実行委員の皆さまには長期にわたり準備を重ねていただき感謝しております。今後も多くの方とスキルアップができる会になるよう、微力ですが尽力していきたいと思います。

業務拡大に伴う統一講習会　北関東地域（埼玉県）　開催報告

学術委員
滝口　泰徳

（公社）日本診療放射線技師会が主催とする第１回「業務拡大に伴う統一講習会」が、平成29年４月22日（土）、23日（日）さいたま赤十字病院にて開催された。参加者は24人。講義および実習を通じて、業務拡大に伴う必要な知識や技能の習得ができたと思われる。受講生の皆さま、また実習を担当された指導者や会場スタッフの皆さまには、この場をお借りしてお礼申し上げる。

今年度は、第２回５月27日（土）28（日）、第３回９月２日（土）３日（日）に開催する予定である。多くの皆さまの参加をお待ちしております。

プログラム：

〈1日目〉

9：00～　9：50　講義（DVD放映）静脈注射関係
9：50～10：40　講義（DVD放映）静脈注射関係
10：50～11：40　講義（DVD放映）静脈注射関係
11：50～12：40　実習・演習　静脈注射
13：30～14：20　講義（DVD放映）法改正
14：20～15：10　講義（DVD放映）IGRT
15：20～16：10　講義（DVD放映）IGRT
16：10～17：00　講義（DVD放映）IGRT
17：20～18：20　実習・演習　BLS

〈2日目〉

9：00～　9：50　講義（DVD放映）下部消化管
9：50～10：40　講義（DVD放映）下部消化管
10：50～11：40　講義（DVD放映）下部消化管
11：40～12：30　講義（DVD放映）下部消化管
13：20～14：10　実習・演習　下部消化管
14：20～15：10　実習・演習　IGRT
15：20～16：10　試験説明および確認試験

スタッフ：

大森　正司	さいたま赤十字病院
石田　直之	埼玉医科大学総合医療センター
八木沢英樹	JCHO埼玉メディカルセンター
吉野　和広	上尾中央総合病院
滝口　泰徳	上尾中央総合病院

（敬称略）